

チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

| | | | |
|-------------------|--|---------------------|------|
| 地域課題タイトル (注1) | No. | タイトル | 自治体名 |
| | | ICTを活用した札幌都心部のまちづくり | 札幌市 |
| アイデア名(注2) (公開) | 肢体不自由者(車いす使用者)が快適なルート(段差回避)が知れる MAP制作プロジェクト | | |

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

| | | | |
|-----------|--|------|--|
| チーム名(公開) | ようこそさっぽろバリアフリーチーム | | |
| チーム属性(公開) | <input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム | | |
| メンバー数(公開) | 3名 | | |
| 代表者情報 | 氏名(公開) | 林禎康 | |
| メンバー情報 | | 木村篤史 | |

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

肢体不自由者（車いす使用者）が快適なルート（段差回避）が知れる MAP

<解決アイデアの内容>

肢体不自由者（車いす使用者）が快適に通過できる MAP が無いので、快適に通過できる MAP を作成する。

GoogleMap や OpenStreetMap には、段差や傾斜などの情報が無く、肢体不自由者（車いす使用者）にとっては不自由である。これを解決するために、上記オンライン MAP で簡単に快適なルートがわかれば、課題である「移動上の困難さ」を回避する事ができる。

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

■ 肢体不自由者が快適に通過できる MAP や情報（通過困難箇所）が存在しない

冬の札幌は、雪が降るために屋外での車いす利用は困難である。

札幌市都心には「チカホ」空間があり、北は札幌駅、南はすすきの迄全長 2KM 以上地下歩道が整備されており車いす利用者が多く「チカホ」を活用しているが、段差や傾斜があり通過困難箇所も多い。スマホから GoogleMAP などで簡便に通過困難箇所を把握できるような情報を収集し、「移動上の困難さ」を回避する事を実現したい事がアイデアの理由である。

（データ） 車いすの利用者数

車椅子利用者という限定的な人数は、統計が取られていないため、分かりませんが、

身体障害者の中には、いくつか分類がありまして、視覚障害、聴覚・言語障害、肢体不自由、内部障害 に分類されます。

身体障害者の中で車椅子利用者は、肢体不自由（上肢・下肢・体幹の運動機能の障害をいう語。その原因・症状・程度は多様である。）に分類されます。

肢体不自由といっても、全てが車椅子利用者でないということに注意して下さい。また、障害の等級というのがあり、これは7級から1級までが障害の程度によって区分されていました。車椅子利用の身体障害者（肢体不自由者）は、概ね2級より障害の程度が重い場合で下肢に障害が起こっている場合に限られます。

その肢体不自由の身体障害者の人数については、統計があります。

肢体不自由の身体障害者の人数は、平成8年で、1657（単位：千人）、平成13年で、1749（単位：千人）、平成18年で、1760（単位：千人） ※推計値です。

また、割合としては、身体障害者の中での約50%を占めています。

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/shintai/06/dl/01.pdf>

※Facebook（車椅子移動自由化機器(隙間段差解消・エスカレーター無停止車椅子移動介助機器)）より

<http://bit.ly/2A5CfPO>

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の**大まかな規模**とその**現実的な調達方法**、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその**解決策等**、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

■ 実現する主体

主体サンプルケース 1：

車いす利用者協力頂き、GPS センサー（スマホでも OK）を装着し、実際に通過できている経路を収集する。

札幌のチカホにはビーコンが設置しており GPS が届かないエリアでも「さつチカ」アプリを通じて、通過できない経路を収集する事も可能である。

主体サンプルケース 2：

車いす利用者でも良いが、一般市民が、段差情報を GoogleMap を通じてピンを立て、段差や傾斜情報を登録する事によりデータを収集する。

■ 実現に必要な資源

（ヒト）

肢体不自由者（車いす使用者）

一般市民（ボランティア）

（モノ）

スマホ

スマホアプリ「さつチカ」

GoogleMap や OpenStreetMap

（カネ）

不要

■ 規模

札幌市都心部からはじめ、徐々に広域に対応する。

ゆくゆくは全国規模で各地域にも取り組んで欲しい。

■ 調達方法

データの取得は、自動（GPS、ビーコン）、手動（MAP にピンを登録（座標情報））

※後にデータは CSV 化し、オープンデータにて公開

■時間軸

(1ヵ月目)

本活動における共感を得るためにカンファレンスなどを行う

↓

(1ヵ月目)

有志（車いす利用者、一般市民）を集める

↓

(3ヵ月目～6ヵ月目)

有志の方にスマホを活用頂きデータを収集する

↓

(4ヵ月目～5ヵ月目)

データの整合性をボランティアエンジニアが調整する

※整合性が取れたデータから順次オンライン MAP に登録

↓

(4ヵ月目～)

公開

↓↑

データメンテナンス